

## いろとかたち の認知

### 赤ちゃんは色よりも 明暗や形から先に認識します

なぜ、赤ちゃんと呼ばれるかというと「赤から見えるから」という説がありますが、実は、生まれたばかりの赤ちゃんは、色より先に、明るさ・暗さを感じると言われています。ベビーベッドが窓際に置いてある家なら、生後間もない赤ちゃんが、日光のさしこむ方向に首を傾けているのを見ることができます。人間も植物と同じ、明るい方向に目を向けていくことからスタートするのですね。

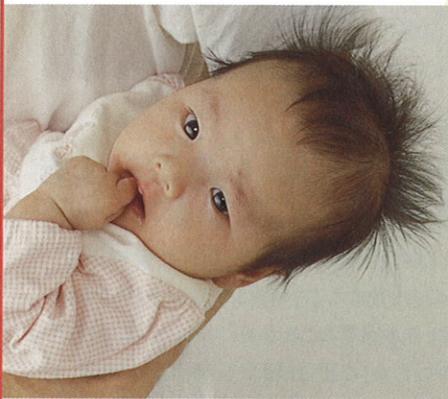
「色み」より「明暗」を先に感じるわけですから、形も濃淡のコントラストがはっきりした、単純な形から見分けられるようです。生まれたばかりの赤ちゃんが、ママのおっぱいに口を近づけようします。こうした行動をするためには、明るい肌色に濃い乳輪という明暗のコントラストで丸い形を認識しているからだと思われます。

### 赤、黄、緑、青の順で 色みを見分けるようになっていきます

生後3～4カ月くらいになると、ママが赤いりんごや赤いおもちゃを手に持っていると、それをジーンと見つめるようになるでしょう。これは、このころから、徐々に赤や黄色など「心理4原色」といわれる、はっきりした色に目を向けるようになっているからです。

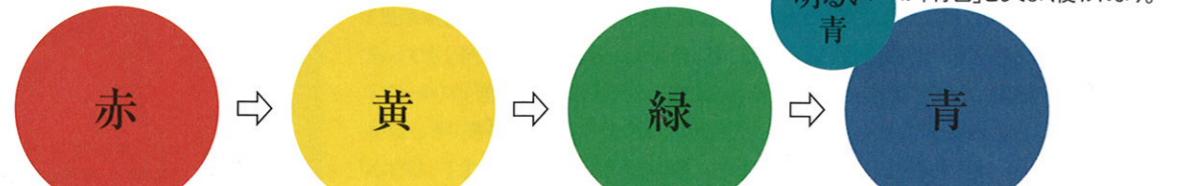
この「心理4原色」とは人間がもっとも見分けやすい色といわれ、赤ちゃんには赤、黄、緑、青の順で認識されていきます。ちょうど手でさまざまなものをさわり始める時期でもあるので、ガラガラなどの握るおもちゃは、カラフルな色合いのものを選んであげるとよいのです。

個人差はありますが、生後9カ月くらいになると、色を見分ける視神経が発達し、心理4原色にプラスして、オレンジや紫も認識できるようになります。いわゆるレインボーカラーといわれる色はこの時期に見分けがつくようになります。色覚が十分に発達していない0才代は、あいまいな色よりも、強い色みのほうが、赤ちゃんの印象には残りやすいのです。



### 赤ちゃんが認識する色の順番

#### [心理4原色]



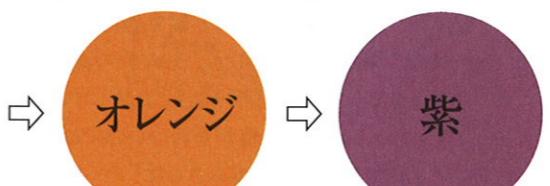
明暗(白・黒)の次に赤ちゃんがもっとも注目する色。おもちゃや洋服などに多くとり入れては。

光の色である黄色は、赤ちゃんが大好きな色。一般的に、暖色のほうが寒色より目に飛び込みやすいといわれています。

植物の色、自然の色でもある緑は、心をおだやかにし、優しい気持ちにしてくれます。

黄色の反対色の青は、子どもにとってはお空の色としてなじみが深いもの。気持ちを落ち着かせてくれます。

#### [レインボーカラー]



赤と黄色をませ合わせてできる色。とても目立つ色で、楽しい色もあります。

暖色の赤と寒色の青をませ合わせてできる不思議な色。神秘性や癒しの色。

花岡ふみよさん  
カラーアートコンサルタント  
心が求める色を探究し、生活に取り入れる「Heart&Lookのベストカラー」を提唱。色彩の療し効果と絵画療法を基礎とする「母と子のカラーアートセラピー教室」も開催。(有)ラピス代表取締役。  
<http://www.lapis234.com>

### 淡くやわらかいパステルカラーは 赤ちゃんは見分けられません…

では、赤ちゃんが見分けにくい色とは、どのような色でしょうか?

0才代は、色覚がまだ未熟なため、視力は弱く、見える範囲や色を見分ける力は限られています。そのため、赤ちゃんの洋服やグッズによく使われているパステルカラーも、赤ちゃん自身は「なんだか薄い色だなあ」くらいにしか認識していないはず。

また、紺、こげ茶、暗い灰色なども、0才代はおそらく見分けることができます。ママが暗い色の服を着ていたら、いつも同じ色に見えているわけです。だから、子育て中のママには黒っぽい服でなく、赤や黄色などのできるだけ明るい色のトレーナーやTシャツを着ることをおすすめしたいと思います。

2才以降には色覚が発達し、たとえば、赤とピンクなどの微妙な色の違いがわかるようになります。多くの色の認知ができる3才以降になると、子どもには好きな色、きらいな色という自分の意思が出てきます。大人と同じ色覚がそなわってくるのは、5～7才ごろになります。



### たくさんの色を見せることで 情緒豊かな子に育ちます

色に無関心でいるのと、積極的にいろいろな色を取り入れた生活をすれば、赤ちゃんの脳の発達に大きな違いがあらわれます。

視神経は物を見ることで、常に発達していきます。その大事な時期に、たくさんの色を見せずに育てたらどうなるでしょうか? 情操面で感性の鈍い子になってしまふでしょう。

黄色は、知力と運動能力を高める「万能の色」。脳細胞の発達を促す色といわれています。実際、3才ぐらいになると、好きな色に「黄色」をあげる子どもが多くなってきますが、これは健全に育っている証拠です。また、明るく元気な子に育てたいなら、テンションを高める「赤」もいいですね。

自然界には、植物の色、空の色など、子どもの大好きな色がたくさんあふれています。情緒豊かな子に育てるためにも、外に出て、めいっぱい太陽の光をあび、人工的な色とは異なる、豊かで多彩な色を体験させてあげてくださいね。